



置くだけで奥深い表現力までもアップ!

驚異的に効くフルテックNCF Boosterに Signal-LとBraceがさらに新登場

繋いだケーブルや端子の“ぐらつき”は音にこだわる上で大いに気になる部分だ。実際にここをしっかりとサポートすると、予想以上に音質が向上して驚かされる。NetAudio周りには不安定な端子が多く、ここを支えるアクセサリは特に有効といえる。フルテックの「NCF Booster」はその旗手ともいえる、多様な機器に使える人気シリーズだ。今回、新たな用途へさらに踏み込んだ注目アイテム「NCF Booster-Brace」と、従来品が使えなかった低い場所に使え「NCF Booster-Signal-L」の気になる効果を徹底検証する。

Text by
鈴木 裕
Yutaka Suzuki
製品Photo by
田代法生

FURUTECH

NCF Booster-Brace

¥19,800 (税別 / 1個、写真右) コネクターホルダー

FURUTECH

NCF Booster-Signal-L

¥14,800 (税別 / 1個、写真左) コネクター／ケーブルホルダー



Specifications

[NCF Booster-Brace] ●構造：マルチマテリアルハイブリッド●本体：NCF調合ナイロン樹脂（静電効果）●ハウジング：特殊アルミ合金プラストおよびアルマイト処理●サイズ：約54W×35H×106Lmm●質量（ネット）：約100g●付属：特殊粘着両面テープ（強力粘着、残留接着剤なし）
[NCF Booster-Signal-L] ●クレイドル：フラットタイプ●高さ設定：基本（一番低い位置での高さ）23.8mm、延長81.4mm（オプションでさらに追加可能）●ベースユニット外部サイズ：89.8×66.0mm●外部サイズ：46W×112L×23.8Hmm●質量：基本約130.5g、延長約177.5g●付属品：エクステンションシャフトバー×2本、固定リング×2本、特殊PU滑り止め透明マット×4個

●人気シリーズがまた新たに進化
低い用途へ対応するモデルと
ブラクを囲む新製品が登場
NCF BoosterとNCF
Booster・Signal
1。ケーブル自体やそのコネクタ
ーを支える形で使用して振動をコ
ントロール。そこで発生する付帯
音を的確に処理する。またNCF
（ナノ・クリスタル・フォーミュラ）
効果によって静電気も抑制。その
改善度の大きさは、もはやこれな
しにハイファイ再生の現代的なク
オリティには到達できない。筆者
も自宅で使用しているが、そのN
CF Boosterシリーズに
新製品2種が登場した。NCF
Booster・Braceと、
NCF Booster・Sig
nal-Lだ。

●NCF Booster・Brace
ブラク周りに装着するだけで
部屋や音量を変えた程に激変
まず、NCF Booster
・Brace。従来のNCF B
oosterシリーズとはちよつ
と作動原理が違ふ。本体の黒い部
分はNCF調合のナイロン樹脂。
銀の部分は特殊アルミ材で、プラ
ストとアルマイト処理が施されて
いる。内部構造は複雑で、振動コ
ントロールを目指した製品だ。

本誌試聴室レファレンスのオヤ
イデの電源タップ、MTB-6へ

現代的なクオリティのハイファイ再生へ もはや、これなしには到達できない

Details NCF Booster-Brace/NCF Booster-Signal-L



スフォルツァートのネットワークプレーヤーDSP-Pavoの接続ケーブルを、NCF Booster-Signal-Lを用いて支持。アナログ出力端子はRCA/XLRともに低い位置にあるので従来のNCF Booster-Signalは入らず、NCF Booster-Signal-Lで支持。一方LANケーブルはNCF Booster-Signalも使用できる。電源部はNCF Boosterも使用可能。NCF Booster-SignalとNCF Booster-Signal-Lの比較は、LANケーブルで実施



NCF Booster-Braceは、電源ボックスや壁コンセントなどの電源プラグ周りの電源プラグ周りに使用する。裏面に固定用の強力粘着テープを付属するので、貼りつけると効果が一層顕著になる



新発売の「Shaft Bar Mix-8L4S」(¥3,400、税別)は、NCF Boosterシリーズの高さ延長用オプション。ロングタイプ(従来品)8本とショートタイプ(新規)4本のセット



NCF Booster-Braceの効果をさらに高める方法として、2段重ねにする方法がある。実際に試すと、さらに大幅なクオリティアップが実現された

NCF(ナノ・クリスタル・フォーミュラ)とは、ナノ粒子化したイオン化する特性の強い鉱物を、樹脂とハイブリッド化した構造素材

プリとパワーの電源プラグを差し込んだところに、まず貼らないで置いてみた。その音はサウンドステージの空間が明確に広くなり、低域にあった部屋の共振音と思われる要素(ボーボー)言っていた)がだいぶ解消したのは驚かされた。空間が実に伸びやかで、音像同士の間にきちんと空間が。全体に音の密度が上がっている。

続いて、付属両面テープでNCF Booster・Braceを電源タップの上面に貼った。さらに音像ひとつひとつがほぐれて、空間が拡がり、ステージが近くに大きく展開。楽器ごとの音感もグルーヴ感の出方もいい。なしの状態と比較すると、到底同じ部屋で同じ音量で鳴らしているとは思えない。ヴァイオリンコンチエルトでのソリストのカラダの向きや、オーケストラの弦五部の重なりが美しい。まとめると、実在感、臨場感が相当に高まっている。

続いてNCF Booster・Braceを二段重ねにしてみた。ちなみに二つ目を一つ目に貼ってしまつと、プラグを抜けなくなるので貼っていない。録音している現場の空気感が濃密に出てきて、音楽との距離がさらに縮まる。ヴォーカルの声ひとつとっても、そのやさしさか思いを込めているニュアンスが横溢。天井方向への響

きもきれいに飛んでいるし、音のないところのタイム感が出ている。それにしても、プラグとNCF Booster・Braceは接触していないのにこの改善度の高さは何なのだろう。確かにオヤイデの電源タップはステンレスシャシーでこの部分の制振の要素は大きい。触れずして電源プラグの振動コントロールまでできてしまふさまは、体験するまでは信じてもらえないと思う。コストパフォーマンスとしても相当に高いアクセサリーだ。

●NCF Booster・Signal・L
見通しや透明度を向上させて
増やしてもデメリットがない
さて、NCF Booster・Signal・L。ベースユニットを低く(薄く)設計することによって、端子などと接するクレイドル部を従来モデルよりも低く設置することができる。ベースユニットは、冷間圧延したスチールプレートに特殊パウダーをコーティング。振動減衰構造を取りつつ、値段は安く設定されている。

今回はスフォルツァートのネットワークプレーヤーDSP・Pavoに接続したケーブル類の端子の下に設置してテスト。アナログアウトのXLR端子、LANケーブルの端子の下はことさら効果が大きかった。カチャッとロックは

かかるが、実は振動が大きいのだろう。あるいは電源ケーブルのIECコネクターの下も。いずれも雑味が取れ、重心が下がり、音像がしっかりしてくるし、音の安定感が増す。空間の見通しや透明度が上がるのもシリーズ共通の性質で、数を多く設置してもデメリットが発生しない。

ちなみにNCF Booster・Signal・Lのベースユニットの底面の端に、付属の特殊PU滑り止め透明マット4枚を貼った状態では、音像は大きめで積極的に前に出る力はアップするが、見通しは貼らない方が良く、立ち上がりのパワーも出る。マットはない状態を標準としたい。

従来からのスタンダードモデルとも言えるNCF Booster・Signalに入れ替えてみると、さらに細やかなニュアンスが出てくる。例えばライヴでのより人間味のある拍手や、ギターの高域方向への伸び。音の厚みやほつこりとした感じ、音像の立体感の精度も20%くらい良い。こちらは高さがあがる分、ベースも入念な構造となっている点が異なる。基本はNCF Booster・Signalを使用し、それが入らない部分にNCF Booster・Signal-Lを、という使い分けを推奨したい。